

不確実な時代の人材育成と多様性

九州工業大学 学長 二 三谷 康範



あけましておめでとうございます。

明専会及び会員の皆様方には、日頃より本学の教育・研究並びに学生の諸活動に対して格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここ数年は新型コロナウイルス感染症に日々の生活が翻弄され、加えて昨今の不穏な世界情勢、エネルギー、資源や食料品価格の高騰など劇的な社会情勢の変化が大学の運営や私たちの日々の生活にも多大な影響を及ぼしています。2019年には年に700名を超える学生を海外に送り出し、多くの留学生を受け入れていましたが、海外への派遣はほぼ止まり、留学生の受け入れに關しても数の減少に加えて、入学したものの

来日できないでいる学生が増えるなど、大学での学びの本質が問われるような事態となりました。このような中でも、遠隔会議システムやさまざまなオンラインツールを使いこなして、その困難を乗り越えてきたことに関して、人間の柔軟さ・強韌さにある種の感動を覚えました。

さて、コロナ禍との付き合い方も経験値が積み重ねられ、次第に、生活様式も通常を取り戻してきていると感じられますが、その一方で、海外派遣を例にとると、航空運賃の高騰や海外の物価高、円安に加え、世界情勢の不安も重なって、学生のマインドはなかなか元には戻りません。そこで、コロナ禍で培ったオンライン連携の知見を活かして、渡航前に海外の学生とのオンライン交流を行い、海外への興味関心を高めた上で現地へ派遣するブレンド型の学生交流を模索しています。渡航費用のサポートも増やし、マインドを向上させる努力も必要と考えています。

このような施策とともに大切に natte くるのが、不確実性を許容して、目の前の困難に柔軟に立ち向かうことができる学生個人個人の資質の向上です。そのための方策の一つとして多様性の向上をキーワードに掲げています。キャンパス内に外国人、企業人、起業家などさまざまな人々が集まり、学生がこうした多様な人々と日常的に接触する機会を増やし、多くの経験を持つってもらう仕掛けです。

その端緒として戸畑キャンパスに共創空間を創りました。1965年に建てられた旧体育館を大胆にリノベーションしたもので大きな共有空間がその特徴です。5月の開所以来連日200名超の学生が詰めかけてくれています。学生たちはサークル、学生プロジェクト、講義の仲間などさまざまな繋がりでここに集まり、集まることで新たなグループの形成の場となっています。さらに、この環境に企業の方々共感を持って集まり、学生との関わりを持ついくつかの「コト」が動いています。先日は本学と連携する複数の企業の協賛でプロのジャズピアニストを招いての演奏会を実施し、その中で本学の

ジャズサークルとのセッションも実現し、大変貴重な経験を得る機会となりました。共創空間は飯塚キャンパスにも新設し、また、若松キャンパスではFAISの建物の中に北九州市立大学や早稲田大学も併用する共創空間が設置され多様性を生む施設の充実が図られています。

私たちが多様性を重んじるのは、イノベーションの創出には不可欠だからです。技術を積み上げて生み出される漸進的イノベーションもありますが、異なる人や技術の出会いによってもたらされる融合的イノベーションの力が現代の科学技術の発展には欠かせません。戸畑キャンパスの共創空間には創立50周年を記念して後援会から寄贈されたベーゼンドルフアーのグランドピアノを設置しています。この存在が、先に説明したジャズコンサートに繋がりました。技術とアートの繋がりが生まれたのです。本学発のスタートアップなど多くの人々が学内で活動し、それが学生に好影響を与える好循環が生まれるキャンパスを夢見て、新年の挨拶に変えさせていただければと思います。